

令和 4 年度千葉市芸術文化振興事業補助金 事業実施報告

市民参加事業 申請事業数 4 事業、採択事業数 4 事業

(1) 第 69 回千葉市民音楽祭

主催団体	(特定非営利活動法人)千葉市音楽協会
事業概要	千葉市を拠点に活動する合唱等の団体が 16 グループ集まって、午前午後の部に分かれて演奏。日頃の練習の成果を披露。
補助金額	200,000 円
日 時	令和 4 年 11 月 6 日 (日) 11 時 00 分～14 時 50 分 (10 時 30 分開場)
会 場	千葉市民会館 大ホール
事業実績	出演者 270 人 (うち一般参加者 260 人) 来場者 約 560 人 (うち一般観客動員 300 人)
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"> 参加が 16 団体に留まったのは残念だが、コロナ禍を経て 3 年振りに開催が実現できたことは意義があった。来年は従前の 30 団体程度が参加できるよう、準備の前倒し等を検討したい。 小中学生から 90 歳を超えるお年寄りまで、幅広い年齢層が参加するイベントだが、事前説明会を実施して注意事項等を伝えても必ずしも内容が徹底されない面が多々あった。個別のきめ細かな対応には限界があるが、相応の配慮は常に念頭に置き対処していきたい。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ホール全体に対しては客席にゆとりがあった。 観客に手振りをレクチャーし、一緒に踊るなど観客を巻き込んだ仕掛けもあった。 日頃は公民館等の小さな会場で活動している各団体が発表を披露しあう場として、有意義に機能していると感じた。 コロナ禍で十分な活動が出来ていない団体が多く、発表の場を与える良い機会となっていると感じた。 参加者は小学生から高齢者と年齢層が幅広く、バラエティに富んだ演目のため聴き手に刺激を与えるよい構成であると感じた。 出演団体が登壇後、演奏前に自己紹介や演目の解説があり、聴き手は聴く体制を作りやすかった。



(2) 和—楽しもう鑑賞と体験—

主催団体	伝統芸能に親しむ会
事業概要	囃子・箏・日本舞踊・地歌・津軽三味線の公演と、講師指導による伝統芸能の体験を行う。
補助金額	200,000 円
日時	令和5年2月18日(土) 13時00分～15時30分(12時30分開場)
会場	千葉市民会館 大ホール
事業実績	出演者 18人(うち一般参加者14人) 来場者 210人(うち一般観客動員210人)
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市政だよりに載らなかったため集客について心配していたが、当会事務局や市民会館に問い合わせが多数あり、楽しみにしているとの言葉をいただいた。 ・ 回を重ねるにつれ、リピーターの方が少しずつではあるが、増えてきている。 ・ 今年度は、10回目ということもあり、邦楽囃子の人数を増やして華やかに開演した。また、地歌箏曲家の菊央雄司先生をお招きし、なかなか千葉では聞けないレベルの素晴らしい地歌を演奏してもらった。菊央先生の歌に魅了された方もたくさんいた。いつものように雛人形を近隣の人形展から借り、ホワイエに展示して和の雰囲気を楽しんでもらった。芸能に限らず日本の伝統文化を鑑賞できる場となった。 ・ アンケート結果によると、各公演について、興味を持って、楽しく参加したなどのコメントをいただいた。「1回から9回まで知らなかったのがとても残念」といううれしい感想もあった。今回もステージ上で体験活動をしたので、体験をしている方々は言うに及ばず、見ている方にとっても、より和の文化に触れる機会になった。 ・ ネットによる配信を行い、アーカイブもあるため、多くの人に見ていただくことができた。後から高評価のコメントをいただいた。 ・ 集客についてはSNSの発信も大切であるが、来ていただく年齢層(年配の方、及び就学児童生徒・未就学児童)のことを考えると、チラシや新聞記事がとても大切であると考えた。チラシ配布枚数を増やすことに決めた。
視察所見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ プログラムに英語が用いられており、外国人への意識を感じられた。 ・ 伝統芸能に親しみを持ってもらえるよう、観客を巻き込んだ説明をしており、バラエティーに富んだ内容だった。 ・ ステージ上での体験は、学生など若年層の参加率が高かった。



(3) 第6回 MOA 美術館ちば児童作品展

主催団体	MOA 美術館ちば児童作品展実行委員会
事業概要	市内小学校 1～6 年生を対象とした絵画の応募、審査、展示の開催。
補助金額	124,000 円
日 時	【全体展示】 令和 4 年 11 月 15 日 (火) ～11 月 20 日 (日) 10 時 00 分～18 時 00 分 【巡回展】 令和 4 年 12 月 20 日 (火) ～12 月 26 日 (月) 10 時 00 分～20 時 00 分 【地域展】 令和 4 年 11 月 28 日 (月) ～12 月 2 日 (金) 9 時 00 分～17 時 00 分
会 場	【全体展示】 千葉市美術館 市民ギャラリー 【巡回展】 そごう千葉店 地階ギャラリー 【地域展】 若葉区役所
事業実績	出展者 801 人 来場者 381 人 (市民ギャラリー) 作品応募数 801 点、参加学校数 39 校
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回もコンセプトを更にしっかりと学校側に伝えることに重点を置いた。応募点数は昨年より少し増加があり、出展児童のそれぞれの思いが明確な作品が多かった。 ・ コロナ禍での開催で、その都度関わる人数に変動があったが、行政の感染予防対策を指針に慎重に進める事が出来た。その様な中でも、展示会場のスペース拡大や美術品レプリカの展示、展示会場での賞状授与など新たな事へも挑戦できた。無事に実施でき、安心している。 ・ 今年は若葉区の出展校からの依頼で、若葉区役所での地域展の開催が、市民ギャラリーやそごう地階ギャラリーでの巡回展と合わせて実施できた。市民ギャラリーでは、新しい試みとして展示スペースの一角で賞状授与、当日ボランティアでお祝いし、記念写真の撮影等を実施。また、来館者に身近に美術品を楽しんでもらえるよう美術品のレプリカを展示した。更に充実を図っていきたい。 ・ 今後もコンセプトである児童の「生きる力」を育むことをベースに、この事業を支える家族やボランティア、さらには作品を鑑賞する市民の方々の「生きる力」をサポートし、地域社会の皆で児童の健全育成に繋がる一助となる作品展を目指していきたい。 ・ 関係者以外の一般市民の方の参加が出来るよう、検討していきたい。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体展示初日の午後に視察したが、観客はあまりいなかった。 ・ 全市的な規模で小学生の作品が美術館に展示され、かつ一般の方にも気軽に鑑賞してもらえる機会は、貴重だと感じた。



(4) オペラ「フィガロの結婚」

主催団体	シティオペラちば
事業概要	団員や市民参加者出演による、モーツァルト作曲「フィガロの結婚」の公演を行う。
補助金額	200,000円
日時	令和5年3月4日(土) 12時30分～16時00分(12時00分開場)
会場	美浜文化ホール メインホール
事業実績	出演者 21人(うち一般参加者4人) 来場者 340人(うち一般観客動員320人)
主催者感想等	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍によって活動が制限され、公演の中止も相次ぎ、一時は解散かとも思えた時期が長かったが、今後もウイズコロナを意識しつつも、声楽の音楽活動の発展に貢献していきたい。 ・ 今回はチケット販売を公演ホールのシステムを使い、電話申し込みやネット申し込み、窓口でのお渡しや最寄りのセブンイレブンでの受け取りを実施した。その他にも電話によるチケット郵送のサービスも行い、それによってチケットは完売したが、公演当日までチケットの問い合わせが続いた。前日にはホール窓口では、当日券の販売は行わないという告知をお願いした結果、当日券待ちしたのは4名だった。結局全員が会場に入ることができたが、見たいお客さん全員に舞台を提供するための工夫が必要と感じている。(配信など) ・ 回を重ねるごとに、本格的にしようという自発的な機運が生まれ、オペラという総合芸術の意味が大きく前面に出てきたように思う。今までは演奏にばかり重点がかかっていたのが、舞台をつくるスタッフ活動の重要性が浮き彫りになった。スタッフ相互の話し合いもさることながら、仕事の分担や工夫が不可欠であることに気が付いた。より良い舞台を提供するために、もっと計画性のある指導力を確立したいと考えている。 ・ 団員や指導者の高齢化による様々な問題にきちんと向き合い、長く市民のための市民によるオペラの伝統を築き上げていきたい。 ・ 市民参加を促すために、今後もオペラごとの合唱団募集及び合唱団参加者への丁寧な指導と共にオペラを演じる喜びを感じ取ってもらえるようスタッフ体制を強化していきたい。
視察所見等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 客席はほぼ満席だった。 ・ スクリーンに字幕があり、オペラが初めての方でも楽しめる工夫がされていた。 ・ チケットが完売しており、オペラの需要が高いと感じた。



(1) 第 14 回「千葉市民による第九特別演奏会」

主 催 団 体	(特定非営利活動法人)千葉市音楽協会
事 業 概 要	公募による市民 88 人が合唱団として出演する、市民参加型の「第九」演奏会。
補 助 金 額	1,500,000 円
日 時	令和 4 年 12 月 4 日 (日) 14 時 00 分～15 時 50 分 (13 時 00 分開場)
会 場	千葉市民会館 大ホール
事 業 実 績	出演者 160 人 (うち一般参加者 100 人) 来場者 約 500 人 (うち一般観客動員 500 人)
主 催 者 感 想 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本各地で年末の恒例イベントとして開催されている第九コンサートを、今回千葉市においても開催できた点は大きな成果であったと判断している。 ・ 合唱に参加したメンバーはもとより、コロナ禍で収入の機会が減少しているプロ音楽家に対し、演奏の機会を提供出来た意義も大きかったと思われる。 ・ 千葉市文化振興課の皆様には、本件補助金のみならず練習・本番会場の先行予約、合唱団募集や公演チラシの配布等々、多大なご協力を賜りました事心より感謝申し上げます。
視 察 所 見 等	<ul style="list-style-type: none"> ・ オーケストラは非常に迫力のあるものであり聴きごたえがあった。 ・ 公募の合唱団は中高年層が多い印象であった。 ・ 公募の合唱団は人数が多いが合唱が揃っていた。プロにも負けず、とても迫力があり、練習の成果が発揮されていると感じた。 ・ 演奏会終了後は拍手が当分鳴りやまなかった。観賞者にとっても特別な演奏会となったと思われる。



第14回 市民による“第九” 特別演奏会
2022年12月4日 (日) 千葉市民会館大ホール